

施策評価シート(平成22年度の振り返り、総括)

作成日 平成 23 年 7 月 8 日

施策	17	道路網の整備	主管課	名称	地域整備課	関係課	
				課長	増田 伸之		

施策の目的	対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標名	把握方法や定義など		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度見込み
	①町民(外国人を含む)	①人口(外国人も含む)	住民基本台帳による 毎年度3月31日現在数値		人	23,305	22,924	22,618	22,194	
	②来訪者	②来訪者数	群馬県観光客数・消費額調査による 日帰り客数+宿泊客数		千人		4,364	4,288	4,045	
	③町内の道路	③道路延長(町道)	道路台帳による		km	1,113.7	1,123.1	1,125.3	1,125.8	
④道路延長(県道)		群馬県沼田土木事務所データによる		km	122.5	122.5	114.8	121.0		
⑤道路延長(国道)		国土交通省高崎河川国道事務所データによる		km	67.9	67.9	67.9	67.9		
	意図 (対象をどういう状態にするのか)	成果指標名 (意図の達成度を表す指標)	設定の考え方	把握方法や定義など	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度目標
	①安全で快適な道路とする。	①町内の道路で不便さを感じる町民の割合	不便さを感じなければ快適な道路空間を提供できたと考える	町民アンケートによる	%		36.6	38.6	-	
	②安全で快適な道路を整備する。	②道路改良率	道路改良率及び都市計画道路整備率が向上すれば、安全で快適な道路を整備できたといえる。	道路実態調査による	%	35.8	35.6	36.6	36.8	
		③都市計画道路の改良率		整備済延長/都市計画決定延長	%	13.4	13.4	14.0	17.6	

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	①道路整備に対して用地の提供や地域の合意形成に努める。 ②地域における道路愛護に努める。 ③地域でできる簡易な修繕及び維持管理を行ってもらう。 ④道路の危険箇所の通報。	1) 町がやるべきこと ①町民ニーズを勘案しながら、住環境の向上や産業の振興に結びつく道路網の整備(維持管理含)を行う。 ②橋梁等の長寿命化を進める。 ③町道の維持管理のための資材支給 ④国県道の整備について国県等へ要望する。 ⑤国県道の整備を実施する際に協力・連携する。
		2) 国・県がやるべきこと ①財政支援 ②国県道の維持管理・整備

## 1. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較 (現状の水準は? 以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

①町内の道路で不便さを感じる町民の割合は、平成20年度36.6%、平成21年度38.6%と2ポイント増加した。地区別に見ると水上地区43.5%、月夜野地区41.8%、新治地区26.2%となっている。新治地区は幹線道路の整備が充実しており、道路整備が進んでいることが伺える。また、水上地区では雪が多いこと、月夜野地区では狭い道路が多いため割合が高いと考えられる。平成22年度については、町民アンケートを実施していないが、改良率があまり向上していないため大きな変化はないと思われる。

②道路改良率は、平成19年度35.8%、平成20年度35.6%、平成21年度36.6%、平成22年度36.8%と微増である。町道の総延長が長いため、道路改良は進めているものの改良率が微増となっている。

③都市計画道路の改良率は、平成21年度14.0%、平成22年度17.6%と大幅に増加した。これは工場誘致に関連した道路(町道悪戸矢瀬線)を整備したためである。

2) 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

①町道延長は県内町村では上位であるため、整備率の向上を図るためには多大な投資と時間が必要となる。

②県内市町村における道路改良率の平均値は平成22年度46.9%であり、みなかみ町の36.8%を10.1ポイント上回っている。道路改良率は道路延長が短く人口が集中する都市部で高い傾向にあるためであると考えられる。また、近隣市町村との改良率と総延長の比較では、みなかみ町が改良率36.6%(総延長1125.3km)であるのに対し、沼田市34.5%(1382.7km)、中之条町35.9%(703.4km)、片品村39.8%(363.2km)、川場村60.7%(158.7km)、昭和村40.6%(536.1km)となっている。(平成22年4月現在)

3) 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準なのか同程度なのか、低いのか、その他の特徴は?)

①町民の約4割が町内の道路で不便さを感じているため、住民の期待に十分応えているとは言えない。

## 2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括

①関口橋(町道悪戸関口線)の施行工事に着手できた。

②入須川師田線の改良工事により1車線道路が2車線道路に拡幅され通行の安全が確保された。

③きめ細かな臨時交付金を活用し、町内全域で舗装補修を行うことで、町民の利便性を向上することができた。

④原材料購入事業では、町が購入した資材を地域に提供し労務を地域が負担することで、町道の修繕整備を進めるとともに、町民の道路愛護意識を醸成することができた。

⑤道幅15m以上の全ての橋梁96箇所の点検を実施することができ、橋梁の長寿命化計画を策定するための土台ができた。

⑥集中豪雨にて被災した新治地区の道路の復旧作業を迅速に行うことで、更なる被害の拡大を防止することができた。

⑦望郷ライン県道昇格について、県議会において趣旨採択されたことは重要な成果であった。

⑧三国トンネル整備検討委員会が国において組織されたことにより、早期着工の見通しができた。

⑨上毛高原駅と水上地区を結ぶ国道291号の拡幅改良が進んだ。

⑩主要地方道渋川下新田線の上津地区一部と師田地区の改良事業が進んだ。

## 3. 施策の課題認識と改革改善の方向

①町内には耐用年数を経過したり老朽化が顕著な橋梁が多く存在することから、改修にも多大な投資が必要となる。今後橋梁の改修を計画的に進めるため、「橋梁長寿命化計画」を策定する必要がある。平成22年度に対象となる全ての橋梁の点検を済ませており、平成23年度には優先度と財源を考慮した計画を策定する必要がある。また、長寿命化計画を策定することで、国からの補助金を受けることができるようになる。

②現在建設中の町道悪戸矢瀬線の全線を早期に開通することで、道路網の利便性を向上させることができる。

③住民の不便さを解消するには、地域の町道を改良すること(狭あい道路の整備)が課題である。

④道路整備において、用地交渉を円滑に進めるため職員の育成および人材確保が課題である。

⑤各種建設促進期同盟会の要望活動により、国県道の改良が進むよう働きかけることが重要である。

⑥町民の4割が不便さを感じているが、どこに不便さを感じているか正確なデータがないため、町民アンケートの設問を工夫する必要がある。

(例)あなたは、国道、県道以外の道路について、どんなところに不便さを感じますか?ア道路が狭い イ歩道がない ウ暗い エ国道、県道への接続が悪い オ水はげが悪い カその他( )